

スーパーグローバル大学創成支援事業 令和6年度事後評価結果表

大 学 名	大阪大学
整理番号	A09
構 想 名	G L O B A L U N I V E R S I T Y 「世界適塾」

◇スーパーグローバル大学創成支援プログラム委員会における評価（公表用）

（総括評価） B	事業目的はある程度達成されているが、今後の発展のためには努力が必要と判断される。
（コメント） 事業期間全体において、「大阪大学憲章」の基本理念に基づいた期間ごとの中期目標の策定により、学長のリーダーシップによる明確な方針の下で、グローバル化、多様化、教育改革、ガバナンス改革、研究力強化等が推進されたものとなっている。これらの取組みにより、次世代型人材育成に向けた様々な教育プログラムが体系化されたことは評価に値する。 具体的な事業展開に当たっては、卓越大学院などのプログラムや、次世代挑戦的研究者育成といったプロジェクト等を複数全学展開させたことにより、大学院教育の抜本的改革が行われただけでなく、2020年策定の「学際融合・社会連携を指向した双翼型大学院教育システム Double-Wing Academic Architecture」構想に基づく研究科間の壁を越えた多彩な横断型教育の相互提供をするに至り、貴学の目指す人材育成が行える教育環境が整えられている。国際共同研究の基盤も構築され、さらなる発展を遂げられた成果として、海外の有力大学等との国際ジョイントラボ形成による共同研究拠点の大幅な拡充や、国際共著論文比率の増加に繋がっていると考えられる。さらには、多面的・総合的評価を行う総合型選抜・学校推薦型選抜などにより、優秀なグローバル人材確保に向けた国際化戦略がなされている点も優れている。 一方で、未達成の数値目標が多く存在することは残念であった。特に、貴学の独自目標で定めた「QS世界大学ランキング」や「分野別被引用数ランキング30位以内の分野数」では令和5年度最終実績値においてそれぞれ目標値を大きく下回っており、本事業の主たる目的が世界大学ランキングの向上であることを考えると、目標に対して十分な成果が上がっているとは言い難い。世界大学ランキングに関する目標が未達成であった要因分析や、個々の取組みが国際的評価の向上にどう貢献しているかを検討し、今後の対応が求められる。さらには、複数の未達項目に対し、大学全体として何が不足していたのかを大学の現状とその課題を分析し、その上で具体的な対応が期待される。 最後に、スーパーグローバル大学創成支援事業による補助期間は終了したが、引き続き徹底した「大学改革」と「国際化」を断行し世界的に魅力的なトップレベルの教育研究を行い、我が国社会の国際化の牽引に寄与されることに期待する。	